

〔1〕第一回企画編集部会後

表題

内容に基づく時期
出典

(3) 森林組合の展開

20 カラマツ林業中心地での森林組合の展開

一九六九～八二年

全国森林組合連合会『森林組合五〇選
最新現地情報』道産カラマツの中心産地
北海道西十勝森林組合

北海道十勝平野の西北部に位置する新得町と鹿追町は、明治三〇年代に入植開拓が始まり、大雪山連峰と日高山脈の豊富な森林資源を背景に、林業と酪農主体の農業を中心に発展した地域である。森林面積の約九割は国有林が占め、トドマツ・エゾマツ・広葉樹の天然林から生産される優良大径木が本地域の林業・林産業の主体であるが、民有林には短伐期樹種としてカラマツが早くから導入され、戦後には拡大造林の花形として大量のカラマツ

〔2〕第二回企画編集部会事前配布資料

表題

刊行年月(日)
出典
〈内容に基づく時期〉

(3) 森林組合の展開

20 カラマツ林業中心地での森林組合の展開

全国森林組合連合会『森林組合五〇選
最新現地情報』一九八三(昭和五八)年九月
〈一九六九～八二年頃〉道産カラマツの中心産地
北海道西十勝森林組合

北海道十勝平野の西北部に位置する新得町と鹿追町は、明治三〇年代に入植開拓が始まり、大雪山連峰と日高山脈の豊富な森林資源を背景に、林業と酪農主体の農業を中心に発展した地域である。森林面積の約九割は国有林が占め、トドマツ・エゾマツ・広葉樹の天然林から生産される優良大径木が本地域の林業・林産業の主体であるが、民有林には短伐期樹種としてカラマツが早くから導入

〔3〕改良案

表題〈内容に基づく時期〉
『出典』刊行年(月日)

(3) 森林組合の展開

20 カラマツ林業中心地での森林組合の展開〈一九六九～八二年頃〉

全国森林組合連合会『森林組合五〇選
最新現地情報』一九八三年道産カラマツの中心産地
北海道西十勝森林組合

北海道十勝平野の西北部に位置する新得町と鹿追町は、明治三〇年代に入植開拓が始まり、大雪山連峰と日高山脈の豊富な森林資源を背景に、林業と酪農主体の農業を中心に発展した地域である。森林面積の約九割は国有林が占め、トドマツ・エゾマツ・広葉樹の天然林から生産される優良大径木が本地域の林業・林産業の主体であるが、民有林には短伐期樹種としてカラマツが早くから導入され、戦後には拡大造林の花形として大量のカラマツ